

毛筆書写技能検定

毛筆書写技能検定
準1級

試験問題

A
日程

〔試験時間〕

130分

〔注意事項〕

1. 受験する級の問題冊子であるか確認してください。
2. 試験監督の指示があるまで問題冊子を開けないでください。
3. 問題内容に関する質問は一切受けつけません。
4. 携帯電話等の電子機器は必ず電源を切り、絶対に使用しないでください。
5. 不正行為をした場合は、答案は無効となります。
6. 受験票と受験に必要な用具以外はすべてしまってください。
7. 墨の色や濃さを確認するために自分の半紙を1枚出しておいても構いません。
8. 答案は各問題につき1枚のみ提出してください。
9. 問題冊子は持ち帰らずに答案とともにすべて提出してください。

〔用具について〕

- ・罫線付きの下敷きを使用しても構いませんが、自作の下敷きは使用できません。
- ・洗濯して落ちる墨や、筆ペンは使用できません。
- ・理論問題の解答時に使用する筆記具は自由となっています。※鉛筆・万年筆・ボールペン・サインペン・つけペンが使用できます。

【受験地番号・受験番号の記入】

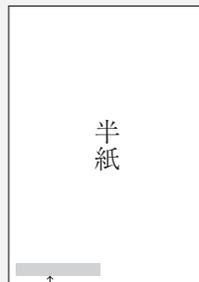
受験地番号・受験番号は、実技解答用紙（半紙・第5問解答用紙）・理論問題解答用紙に、**受験票に記載されている番号を正確に記入してください。**

【準登録（片方合格）の手続き】

準登録（片方合格）の方は、該当科目の解答用紙に受験地番号・受験番号のみを記入し、必ず白紙で提出してください。

〔不許複製〕

この試験問題の複製（コピー）を禁じます。また、この試験問題およびその内容を当協会の許可なく他に伝える行為や、漏えい（インターネット上に掲載することを含みます）することを固く禁じます。



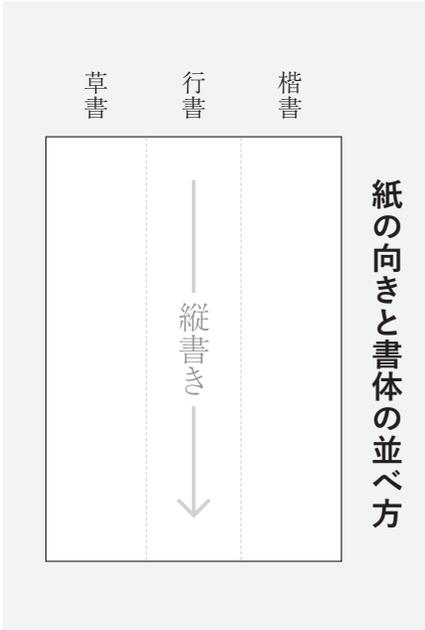
受験票の受験地番号・受験番号を記入

実技答案（半紙）は、左下に受験地番号・受験番号を記入してください。

実技問題

第1問 つぎの漢字四字を、別紙（半紙一枚）に縦書きで楷書・行書・草書の三体で三行に書きなさい。

雲
山
千
里



第2問

つぎのわく内の文を、別紙（半紙）を縦長にして**四行**又は**五行**に**体裁よく**書きなさい（漢字は**行書**で書くこと。仮名は連綿で書いてもよい。漢字・仮名は課題のとおりを書くこと）。

若し吾々が造物主の心を知ることさへ出来たならば 吾々は造物主が彼らを創造した意義を発見するだろう

（福永渙）

紙の向きと使い方

縦書き



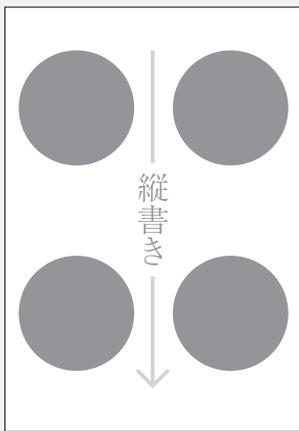
第3問

つぎの文字は集王聖教序の一部分です。これを別紙（半紙）を縦長にして二行に臨書しなさい。



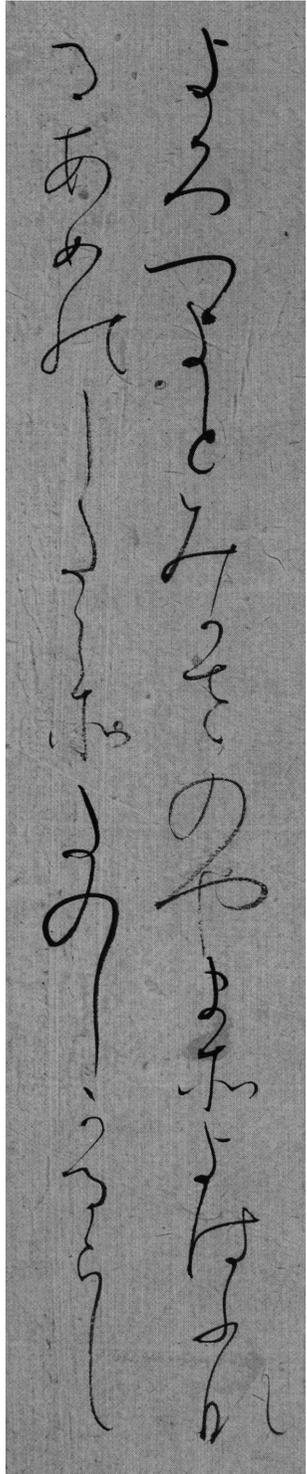
（窺天鑑地）

紙の向きと使い方



第4問

つぎの和歌は粘葉本和漢朗詠集の一部分です。これを左の図のように別紙（半紙）を縦長にして、二つに折り、右半分に二行に臨書しなさい（写し書きをしないこと）。



よろづよとみかさのやまぞよばふなる あめのしたこそたのしかるらし

紙の向きと使い方

縦長にした半紙を縦に二つに折り、
右半分に臨書してください。



第5問

つぎの沢本さんから田中さん宛のはがきの宛名書きを、別紙のはがきに**縦書き**で**体裁よく**書きなさい
(一枚のみ提出してください)。
鉛筆で線をひいたり、下書きをしてはいけません。郵便番号はボールペン・万年筆で書いてもよい。

182-0017 520-2563

滋賀県蒲生郡竜王町
七里八四

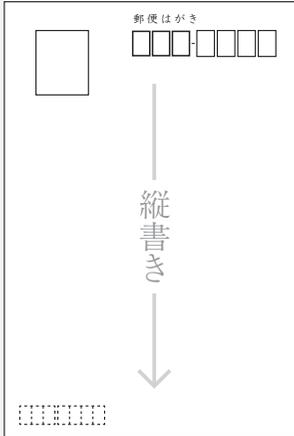
土屋 賢二 様

調布市深大寺元町

二ー八ー四

小泉 かおる

紙の向きと使い方



第6問

つぎのわく内の掲示文を、別紙（半紙）を縦長にして、**縦書きで体裁よく書きなさい**（漢字は楷書、または楷書に近い行書で書いてもよい）。

文学講座

日時 六月十九日（日）

午後一時から三時まで

場所 文芸会館二階

内容 「近代文学について」

講師 早川重明先生

主催 現代国語研究会

紙の向きと使い方

縦書き

第7問

A

つぎの草書で書かれた漢字を、常用漢字の字体（楷書）で下の の中に書き入れなさい。

1 跡雪

3 美濃

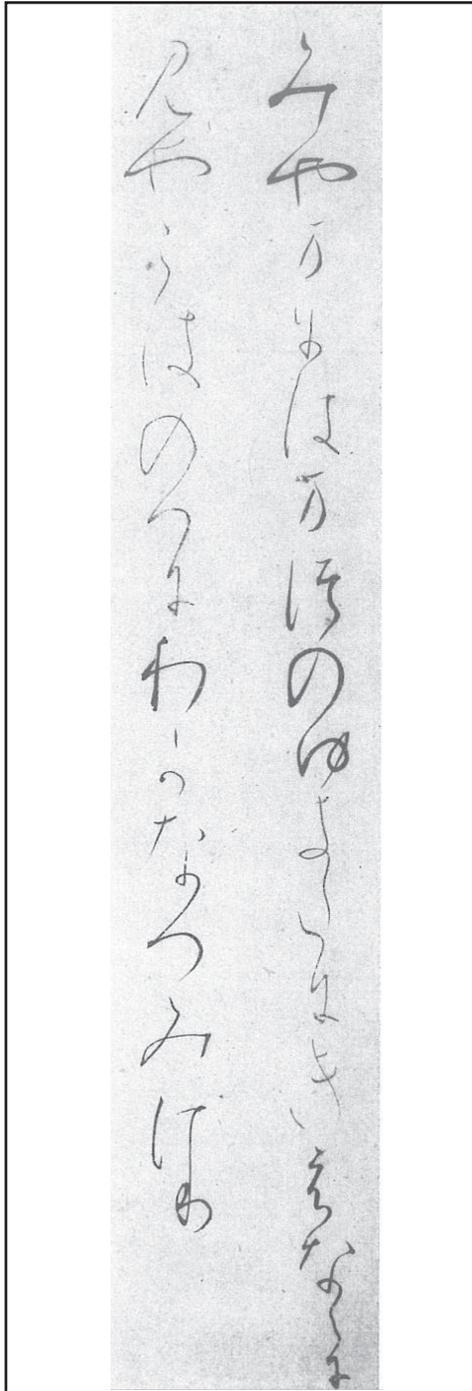
5 由来

2 紅梅

4 成功

B

つぎの仮名について、全部の字を仮名は平仮名で、漢字は楷書で外側に書き改めなさい。



(高野切第一種)

第8問

つぎの漢字の[A]列はいわゆる旧字体で、[B]列はいわゆる書写体です。これらの一〇字を、常用漢字の字体（楷書）で、下の□の中に書き入れなさい。

[A] 醫

[A] 團

[A] 傳

[A] 様

[A] 藝

[B] 遊

[B] 柳

[B] 圓

[B] 過

[B] 顔

第9問

[A] つぎの1から5までの文章で、正しいと思うものには○を、誤っていると思うものには×を、下の□の中に書き入れなさい。

1 高野切や寸松庵色紙は、三跡の一人、紀貫之が書いたと伝えられている。

2 顔氏家廟碑は、顔惟貞のために建てた廟なので、顔惟貞廟碑とも言われている。

3 十七帖は、王羲之の書いた十七通の手紙をまとめたので、十七帖と名がつけられた。

4 奈良時代、文章や和歌が漢字のみで表記された。この音のみ借りたものを万葉仮名という。

5 真草千字文は、智永の書で、真は真書（楷書）、草は草書で二つの書体で書かれている。

[B] つぎのアからオの筆者（伝承を含む）に関係のある作品名の番号を□の中に書き入れなさい。

ア 孫過庭

イ 藤原行成

ウ 小野道風

エ 褚遂良

オ 鄭道昭

- 1 継色紙
- 2 書譜
- 3 関戸本古今集
- 4 鄭文公下碑
- 5 孟法師碑

裏面に第10問があります。

第 9 問
点

第 8 問
点

第10問

A

つぎに書かれた文の漢字について、常用漢字の字体から見えて誤りまたは不適当な字があったら、その右に正しく書き改めなさい。全文を書き改めてはいけません。

			成功の程度を測る尺度は、どんなに難しい問題を解決した		
			かではない。去年と同じ問題が今年も又持ち上がっていないかである。		

第 10 問
点

A